

山形から学ぶ

■山形県の現状と課題

「平成28年度山形県男女共同参画白書」より

- 共働き率の高い都道府県：全国1位
- 育児をしながら働いている女性の割合：全国2位
- 「夫は働き、妻は家庭を守る」という考え方
「反対」が「賛成」を初めて上回る。(H26)
- ▽建設業や研究者など女性の割合が少ない分野がある。
- ▽政治・行政・民間企業・教育における指導的地位の女性の割合が低い。

やまがたイグメン共和国の活動

- ① 絵本の読み聞かせ講座
- ② FMコーナー出演
- ③ 昆虫採集
- ④ 父と子の料理教室
- ⑤ 父と子のお片付け教室
- ⑥ イクメン講演会
- ⑦ イクボス講演会
- ⑧ 学校、家庭、地域についてワークショップ
- ⑨ 飲まない飲み会
- ⑩ ファザーリング全国フォーラム
- ⑪ 夫婦円満宣言都市プロジェクト



(講師の武田氏提供)

探究学習で学ぶキャリア形成

【授業名】

山形大学 基盤共通教育

「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス(山形から学ぶ)」

【授業の目的】

- ①ワーク・ライフ・バランスについて考え、自分のキャリア・ビジョンを描く。
- ②男女共同参画社会を理解し、課題を考える。
- ③新聞学習で社会人基礎力を身につける。

【授業の計画】

- ゲスト講師の授業は、講義、質疑、まとめで構成。
講師への事前連絡・進行・質疑などを学生が担当。
- グループごとに課題探究学習を行う。
- 新聞切抜きレポートに取り組む。
- 小白川キャンパスにある保育所の見学学習。

【学生の感想】

- ☆山形で活躍している女性・男性の講義をとおして、自分の価値観や視野が格段に広がった。
- ★人生の選択や自分らしさの磨き方など参考になった。
- ☆質疑応答などを通じて、新たな発見があった。
- ★様々な場面で使える学び方のスキルを修得できた。
- ☆これまではスマホで気になるニュースを見る程度だったが、新聞のメリットがわかった。

男女共同参画とは

「男女共同参画社会基本法」

(平成十一年六月二十三日法律第七十八号)

第一章総則(目的)第一条

- ・男女の人権の尊重
- ・社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現する緊要性
- ・基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務
- ・施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進

山形大学は、「男女共同参画社会基本法」の理念に基づき、男女共同参画のために大学が担うべき役割と責任を自覚し、「山形大学男女共同参画宣言」(平成21年)を策定し、男女共同参画を推進している。

性別にかかわらずに、すべての人が個性と能力を発揮できる世の中がダイバーシティ社会である。我が国では男女共同参画基本計画や科学技術基本計画等の下、男女共同参画や教育分野におけるダイバーシティ推進を図っている。山形大学は平成27年度に文部科学省のダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)に採択され、米沢栄養大学、大日本印刷株式会社研究開発センターと連携し、ダイバーシティ環境の実現をめざしている。

この「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」の授業は、男女共同参画を担う次世代を応援するため、男女共同参画推進室が担当している。

平成30年3月28日発行
発行 山形大学男女共同参画推進室
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
TEL 023-628-4937
Mail y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
編集 准教授 井上榮子



これからの 「仕事」の 話をしよう



平成29年度 山形大学 基盤共通教育の授業 「キャリア形成とワークライフバランス(山形から考える)」探究ノート

《講義内容》

- | | |
|---------------------|-----------------------------------|
| 01 日本社会の平等と法制度 | 池田 弘乃 学術研究院准教授(人文社会科学部担当) |
| 02 栄養化学の研究を振り返って | 井上 奈穂 学術研究院准教授(農学部担当) |
| 03 個性を伸ばす | 小川 雅子 学術研究院教授(地域教育文化学部担当) |
| 04 JUST BE YOURSELF | JIPTNER Karolin 学術研究院助教(理工学研究科担当) |
| 05 マルチステージの生き方 | 小倉 泰憲 学術研究院教授(理学部担当) |
| 06 日本の「世間」と男女共同参画 | 山本 陽史 学術研究院教授(EM部・基盤共通教育担当) |
| 07 遠い将来よりも今を大切に | 松浪 容子 学術研究院助教(医学系研究科担当) |
| 08 仕事、家庭、自分、そして社会 | 武田 靖子 (株)ジョインセレモニー常務取締役 |

日本社会の平等と法制度

10月19日(木) 14:40~16:10

講師 **池田 弘乃**

学術研究院准教授(人文社会科学部担当)

Profile

40歳代
東京都出身

専門は法哲学。ジェンダー・セクシュアリティと法制度の関連について研究している。特にセクシャル・マイノリティをとりまく法制度に関心をもっている。

● 就職した動機と仕事の内容

仕事の内容: 研究と教育(法哲学、ジェンダー・セクシュアリティと法について)
就職した動機: 考え続けたい問題があったから。

● これまでの道のり

或る意味ロスジェネ的な歩み。大学院で学んだ後、大学等の非常勤講師を経て、4年前に山形大学に着任。

● ワーク・ライフ・バランス

悩み: 社会制度が想定している「家族」像がやや硬直的であること。
喜び: それでも何とか連帯しながら苦労をシェアできる友人たちがいること。

● 夢や目標

よい研究をすること。学生たちが自分以上の人材に育っていくのを助けること。

● 学生へのアドバイス

瞬間的な情報に流されるのではなく、古今の書籍を読みながら(紙媒体でも電子媒体でも構わない)立ち止まって、いろんな角度から物事を考える習慣を身に付けていくと、どんな時代になってもへこたれずに生きていけるかもしれない。

● 「山形の女性の働き方」から男女共同参画を考える

多様な人々が、その多様な姿のまま働き、生きていくのを支える社会制度が日本に、また山形に十分あるかどうか、大きな問題である。

講義ノート

- ◇日本社会は平等か? / 「男女共同参画社会基本法」Basic Act for Gender Equality
- ◇ワーク・ライフ・バランスの理念 / 「女性活躍推進法」、男性の長時間労働の問題
- ◇家族制度と法制度 / 「日本国憲法」第13条、第24条
- ◇関連問題と法的保障の課題 / 夫婦別姓、LGBT、同性カップル、トランスジェンダー



Q 男女や家族像についてどう思うか? 先生が考え続けてきたテーマは?

A 男女の特性があっても個人差も大きい。誰を家族と思うかも多様で、特定の人というより安心できるホームが家族。いろいろな家族を法で支えていくべきと考えている。



栄養化学の研究を振り返って

11月2日(木) 14:40~16:10

講師 **井上 奈穂**

学術研究院准教授(農学部担当)

Profile

40歳代
福岡県出身

専門は栄養化学、食品機能学。鹿児島大学大学院連合農学研究科で学位取得。順天堂大学医学部研究員、東北大学大学院農学研究科助教を経て現職

● 就職した動機と仕事の内容

学部時代に研究室を決める段階で、動物実験や細胞実験ができるのが「食品栄養化学」だったことがきっかけで現在に至る。「食品」の中での、身体のバランスを整えたり、疾病の予防や改善に役立つ成分を探索し、安全性や機能性を明らかにする研究。

● これまでの道のり

思っていたような道のりを歩んできたわけではなく、比較的、流れ流され、で進路を選択した。学位を取るまでは、与えられたハードルをクリアし続けることに必死で、学位取得後は、要所所で立ち止まりつつ、進んでいる状態。

● ワーク・ライフ・バランス

以前に比べるとオンとオフの切替がうまくできるようになってきている。ただ、昔も今も、研究は苦勞の連続で辛いことの方が圧倒的に多い。その中で新たな知見が得られた時、思いがけない方向に進んで研究がさらに広がっていく時などに、続けてきてよかったと嬉しくなる。その瞬間のためだけに辛さに耐えていると言っても過言ではない。

● 夢や目標

学生がどの世界に進んでも、「芯がしっかりしていて、責任感がある」ことが大事。そういう人材を育てたい。研究に関しては、山形や庄内の地域性を活かした研究を行いたいと考えており、これまでの研究テーマも大事にしつつ、地元の食材の有効性や機能性についての研究に携わっていこうと思っている。

● 学生へのアドバイス

興味がある分野はもちろんだが、ちょっと苦手な、ちょっと敬遠しがちな、という分野にもアンテナを伸ばしてみると、新たな発見があるかもしれない。いろんな知識を吸収できる土台づくりをすることが大事なことだと思う。



Q 女性で理系に進むことに抵抗はなかったか? 人生の選択で基準にしていることは何か?

A まったく迷いはなかった。親の理解もあった。人それぞれの特性であり、農学部には女性が多く、優秀だ。道を選択する時は自分が幸せか、面白いと言えるかが大事だ。



講義の振り返り

今回の講義では、法の観点から学ぶことができた。社会制度は、どのような人であって保障されるべき基盤なので、正義は人それぞれだと最初思っていたが、社会制度のうえでは「正義の探求」がやはり大切だと思った。

平等と画一化はイコールではないことがわかった。平等の意識やLGBTへの理解を深める必要がある。性的指向を問わず、個人を尊重し、平等を実現する手段が法律であり、法制度に関心を持っていきたい。

日本社会では、政治、経済、教育など様々な分野で男女の差がある。男女平等について法の視点から見ることで、固定観念にとらわれていないが、現実がどうなっているの考えるようになった。日本は男女平等を推奨しているが、少子高齢化の解決などを実現するための法整備や政策が国際的に見て遅れている。

講義の振り返り

先生自身のこれまでのキャリアから、これから生きていく上での多くのアドバイスをいただいた。中でも印象に残ったのは、「自分が幸せであることが大切」という言葉だ。大学を卒業後、多くの選択に迫られると思うが、「自分が幸せでないとも周りも幸せにできない」という言葉を大事にしたい。

食品の安全性や機能性が分かるまで、研究の努力の積み重ねがあることを改めて感じた。「何かを得ようとするとき、何かを捨てなければならない」というお話もあったが、農芸化学女性研究者賞を受賞された。後に続く女性研究者が増加すればいいと思う。

女性が少ない職場で、女性研究者として不利に扱われたことがない聞いて安心した。しかし、女性の母数が少ないことにより、女性の代表のように象徴化されたり、失敗すると目立ったりすることがある。女性にとっても男性にとっても、人数が少なすぎて働きづらいと感じることがない社会に向けて、今後改善されればよいと思う。

個性を伸ばす

11月9日(木) 14:40~16:10

講師 **小川 雅子**

学術研究院教授(地域教育文化学部担当)

Profile

60歳代
佐賀県出身

専門は国語科教育。国語表現指導や古典教育を中心に研究。山形大学に赴任して約30年。現在は管理職として多忙さの中での仕事の仕方について学んでいる。

● 就職した動機と仕事の内容

国語科教育について研究を深め、教員養成の仕事をしたと考えた。地域教育文化学部における国語科教育関連の講義を担当している。

● これまでの道のり

学生時代は、自分が追究したいと思ったことに集中していた。高等学校教員としての実践の中で問題意識が生まれ、大学院進学を決意した。大学への就職(男女雇用機会均等法施行前)は難しかった。「ハラスメント」という言葉が職場になかった頃の経験から学んだことは力になった。

● ワーク・ライフ・バランス

これまでは研究活動を第一に目の前の仕事を優先させていたので、あまり意識してこなかった。仕事の量や時間よりも、心理的な問題の方がストレスになりやすく、自分なりの対処法を工夫してきた。山形の自然の美しさには、本当に心が癒やされる。

● 夢や目標

自分の研究をさらに深めて表現していくこと。ボランティア活動の継続と発展。

● 学生へのアドバイス

他者の評価を第一に考えるのではなく、自分のやりたいことを見つけて力を尽くすこと。友人や様々な人たちとの関係を豊かに築くこと。「読書」や「経験」を通して、さらに国内外の情勢に関心をもって、自分のもの見方考え方を広げ深めて生き方の基盤をつくること。

● 「山形の女性の働き方」から男女共同参画を考える

男女共同参画社会の課題は多様。活躍の姿が目に見える「働き方」が目立ちやすいが、目立たないところで社会や家庭を支えている様々な「働き方」の重要性を共有して、互いに補い合っていく観点が大切だと考える。



Q 花の芽と雑草の芽の見分け方を知ってる？

A 二つのプランターの一方に花の種を植え、他方に何も植えない。数日後、両方から出ている芽が雑草だ。周りと同じ雑草にならないように、自分だけの花の芽を伸ばそう。



Q 海外と比べて日本の働き方をどう感じるか？働き方を変える壁は？

A 外国から見れば日本は働き過ぎで会議時間も長い。法律的には休めるが、しっかり休んでいない。価値観の違いや心の中の壁が障害だと思う。

JUST BE YOURSELF

11月30日(木) 14:40~16:10

講師 **JIPTNER Karolin**

学術研究院助教(理工学研究科担当)

Profile

30歳代
ドイツ出身

国際交流センターで仕事をしている。以前は、太陽電池用シリコンの研究者として研究所で働いていた。筑波大学で学位取得。ドイツ人、夫は日本人

● 就職した動機と仕事の内容

山形大学工学部国際交流センターの教員、科学英語教育、留学生サポート、国際交流プログラム担当

● これまでの道のり

ドイツ出身、16歳アメリカへ留学、25歳~筑波大学院生、28歳からつくば市の研究所、30歳から米沢、山形大学工学部

● ワーク・ライフ・バランス

「ちゃんと働く、ちゃんと休む」を目標にし、毎日、朝8時前に仕事を始めて、18時に家に帰るようにする。冬・夏休みに海外旅行によく行く。それでも「休みすぎじゃない」と日本人に言われたことがある。反対に「日本人は働きすぎじゃない？」と思っている。

● 夢や目標

学生も教職員も日本語だけでなく英語でも交流ができるような山形大学にしたい。日本の国際化、英語交流だけでなく、考え方や視野を広げる。

● 学生へのアドバイス

Be yourself. Try to live a life that you are happy with. 社会のルールも多いと思うが、全部を無視するわけではないが、できるだけ自分らしいライフスタイルをした方がよい。

● 「山形の女性の働き方」から男女共同参画を考える

専業主婦を前提としたルールの設定の撤廃が必要。我が家のゴミ出し場には鍵がかかっており、当日の朝に解錠されるが、私が家を出る時間には開いていない事がよくある。他の方は専業主婦や家で畑仕事をする方が多いのか問題になっていないようだ。小さな事かもしれないが、専業主婦などを前提としたルールが多くあると思う。

講義の振り返り

「花の芽と雑草の芽」のお話から、「自分らしさ」とは何か考えるきっかけになった。個性は自分しか持っていないものなので大切にしたい。日本の男女共同参画社会はほど遠く、男女が互いに補い合っていくという観点が必要だ。

自分自身が具体的にめざすものを持っておらず、何とかしないといけないと焦っていた。今回の講義を聞き、自分のやりたいことではないことにも挑戦し、自分の可能性の幅を広げることや、他人と比較せず自分の個性、めざすものを持つということが大切なのだ実感した。

男女共同参画について、男女の個性はそれぞれであり、平等であると改めて感じた。人生で困難なことがあっても、肯定的な生き方の工夫をしていきたい。

内的言語(内言)のお話から、周りを気にした外言ではなく、自分のありのままの思いを大事にしたいと思った。それが個性(花の芽)を伸ばすことになる。

講義の振り返り

給料やキャリアより自分のやりたいことを優先し、新しいものへ挑戦している先生の考え方は素晴らしい。大学生のうちにたくさんすることに挑戦していきたい。

しかし、自分のしたいことをするとっても様々な壁があり、それを突破することは難しい。特に、日本人は周りに合わせてしまう傾向があるため、視野を広げ、周りに流されない心を持つことが必要だ。

ドイツ出身の先生の話はとても新鮮だった。日本を一度出てみると、日本の長所・短所などの新たな発見があるという話が印象的だった。海外に行きたいという思いがとても強くなった。たくさんの国に行き、いろいろな体験してみたい。

日本では女性らしさにとらわれ、社会的・文化的に形成されたジェンダーの影響を受けている。性別役割分業や専業主婦を前提にせず、あたりまえに思っていたことに疑問を抱くことが、男女共同参画社会の改善の糸口かもしれない。

マルチステージの生き方

12月7日(木) 14:40~16:10

講師 **小倉 泰憲**

学術研究院教授(理学部担当)

Profile

50歳代
岩手県出身

専門はカウンセリング心理学と音響工学。学生と教員を対象にキャリア支援を行っている。子どもはいないが、音大卒の妻のキャリアと一緒に考えてきた。

●マルチステージのライフデザイン

これまでは「教育」「仕事」「引退」という3段階の生き方・働き方が多く見られた。しかし、これからは「教育」と「仕事」を複数回繰り返す多段階の生き方・働き方になるという説がある。これは私にも当てはまるので、紹介していきたい。

●第1段階の教育と仕事

秋田大学で電子工学を学び、その後、東北大学大学院で修士・博士の5年間、音響工学を学んだ。28歳で民間企業(関東の警備業)の研究所で技術者として働き始めた。

●第2段階の教育と仕事

働きながら、産業カウンセラーをめざして心理学を学び、日本キャリア・カウンセリング研究会でNPO活動を開始。キャリア・コンサルタント養成講座の講師を行った。

●第3段階での教育と仕事

筑波大学社会人大学院で働きながら学び、修士(カウンセリング)の学位とカウンセラーの資格を取得。キャリア開発の普及をめざし、山形大学理学部のキャリア教員に就任。平成23年10月1日、大きな転機が訪れた。前の日まで企業の課長だったのが、この日から山形大学の教授になったのだ。関東から山形に住む場所が変わり、仕事内容は技術系の仕事からキャリア支援になるなど、生活も仕事も大きく変化した。

●学生へのアドバイス

21世紀は技術革新による急激な変化をはじめ、政治・経済の不確実性が増し、今までのような3段階を前提とした長期的な計画は困難な時代になった。また、今の大学生の平均寿命は100歳ぐらいになると予想されている。この二つから言えるのは、長く生きる間に大きな転機が複数回訪れ、多段階の生き方・働き方をすることだ。大学生の皆さんはこれまでとは違うライフデザインと転機への心の準備が必要になる。



Q 安定した課長職から転職したときに、迷いはなかったのか？

A 7年かけてその後のキャリアについて妻と話し合っていた。何がやりたいか分析し、反対意見は気にしなかった。定年退職後も新たな段階の教育と仕事があると思う。



日本の「世間」と男女共同参画

12月21日(木) 14:40~16:10

講師 **山本 陽史**

学術研究院教授(EM部・基盤共通教育担当)

Profile

50歳代
和歌山市出身

日本文学(江戸時代から藤沢周平、井上ひさしなど現代文学まで)と日本文化論(日本人と「世間」との関係)を専攻。単身赴任・遠距離介護の経験者

●就職した動機と仕事の内容

高校時代に井上ひさし(山形県川西町出身)の直木賞受賞作『手鎖心中』を読み、江戸時代の文学研究を志す。大学では高校の国語教員免許を取得し、大学院で江戸文学を専攻。山形大学教養部に就職し、現在は基盤教育の授業担当と入試広報業務を行っている。

●これまでの道のり

大学入学時から大学の教員(研究者)を目指した。山形大学教養部→教育学部→関東の私大→工学部に復帰→基盤教育院→エンロールマネジメント主担当。放送大学客員教授。

●ワーク・ライフ・バランス

妻の両親の介護が終わり、遠距離の母の介護が課題。3人の子育てが終わり、中学校教員の妻も今春退職。現在は単身赴任中だが、夫婦2人だけの生活スタイルを模索中。

●夢や目標

現在は日本世間学会代表幹事として、学会の運営にあたりるとともに日本人と世間との関係を文学作品などを題材に追求している。西洋の科学の枠組みとは異なる「世間」学を学問として認知してもらうよう取り組んでいる。最近は台湾やイタリアで講演会や俳句のワークショップを開催。日本や山形の文化を世界に広めていくことも目標。

●学生へのアドバイス

中国や韓国ではなぜ夫婦別姓なのか？日本ではなぜ夫婦別姓がなかなか認められないのか？妻のことを「奥様」「家内」というのはなぜか？身近な現象を当たり前のことと受け止めて、なぜそうなったのか問いかけてみると世の中のしくみなどが見えてくる。

●「山形の女性の働き方」から男女共同参画を考える

山形県は三世代同居率が高く、ということは子育てを祖父母が担当することが当たり前に見られ、結果夫婦共働き世帯も多いのだが、育児の社会化がその分遅れているとも言える。



Q 日本では夫婦は同じ姓を名乗り、「奥様」と呼ぶのが当たり前なのはなぜか？

A 韓国の話を聞き、文化や宗教が強く影響していることがわかった。「奥様」のような言葉が女性をしばりつけていたことにも気がついた。



講義の振り返り

「ワークはライフの中に含まれる」というカウンセリングの考え方がとても新鮮だった。ワークの中に家事・育児や介護も含まれ、人生のほとんどはワークだ。ワーク以外に息抜きや充電の時間がないと人間はだめになってしまうので、学びや充電の時間も大切にすることが必要だ。

先生のこれまでのキャリアをお聞きし、大人になって安定した生活でも、学ぶという姿勢を忘れないことが大切だと思った。人生100年時代なので、教育と仕事を繰り返す時代がきた時の心構えにもなる。また、ワーク・ライフ・バランスは天秤にかけられるのではなく、それらを合わせた時のクオリティーも考えてみたい。

先生との数多くの質疑応答をとおして、今回は納得することが多かった。特に、「違う世代の管理職が、『仕事をするのが当たり前』という古い価値観を若い人にも押しつける」という話から、価値観の違いが過労死などの問題を生むことがわかった。

講義の振り返り

「世間」の話が一番印象に残った。日本独特の文化として、「世間体を気にする」ということによって、男女共同参画社会が進みづらい面もあるのだということがわかった。同調を求めたり、合わせなければという意識が強い点が問題である。

確かに私たち日本人は「みんな」と同じことを好み、集団に紛れるのが得意だ。私もその一人で、他人と違うことをすると浮いてしまうのではないかと恐怖心がある。しかし、人それぞれの考え方の違いを認め合い、もっと自分を出していったら柔軟性のある日本社会が築けるだろう。

日本の「世間」がダイバーシティを肯定的に受け入れることができるようになれば、男女共同参画が拡大するはずだ。そのためにも現在の日本や環境を当たり前だと思わず、疑問を持ち、調べてみようとするのが大切だ。

*山本先生は、毎週、新聞レポートのために新聞を提供してくださった。

遠い将来よりも今を大切に

1月18日(木) 14:40~16:10

講師 **松浪 容子**

学術研究院助教(医学系研究科担当)

Profile

40歳代
米沢市出身

看護学専攻臨床看護学講座所属。専門は成人看護学。山形大学で学位取得。附属病院看護師を経て現職。禁煙支援について研究している。夫・子2人と同居。

● 就職した動機と仕事の内容

看護師として大学の附属病院に勤務中、母校の大学教員に公募の話があり上司の勧めと自分の希望が一致し、現在に至る。現在の仕事は看護教育と研究を主とし、社会貢献活動にも取り組んでいる。

● これまでの道のり

元々は様々な職種に関心があった。特に医療に関心があり、その中で看護師を選択し大学に進学、資格取得。大学病院で勤務中に大学教員の公募があり、教育や研究にも関心があったため応募し採用される。経験のない分野への不安や苦勞もあったが、それが自分自身のキャリア形成や自分の成長につながっている。

● ワーク・ライフ・バランス

結婚・出産を経て両立に悩む時期もあったが、自分らしい働き方を追求し、ワーク・ライフ・バランスを追求し、様々な折り合いを経験しながら仕事を継続してきた。単に時間のバランスをとるだけでなく精神的に健全を保てるように心がけてきた。

● 夢や目標

今の研究の成果を出すこと、成長を見届けること、社会貢献を続けること

● 学生へのアドバイス

失敗は成功のもと； 失敗しないとできない経験もある。
他人と比べない； 完璧な人なんていない、自分にしかできないこともある。
遠い将来よりも今を大事； 夢や目標は変わるものだ。だからである。

● 「山形の女性の働き方」から男女共同参画を考える

自分で抱え込まないで助けを求めたりサービスを活用することも大切。社会は相互関係で成り立っている。声を上げることが社会を変えるきっかけになるかもしれない。



Q 仕事・子育てをとおして多くのことを学び、キャリアに生かしてこられたが、両立のコツは？

A 仕事のオンオフの切り替えをして、楽しむようにした。合わせて、産休、育休、保育園、児童手当などあらゆる子育てに関するサービスを活用。



仕事、家庭、自分、そして社会

1月25日(木) 14:40~16:10

講師 **武田 靖子**

(株)ジョインセレモニー常務取締役

Profile

40歳代
山形市出身

山形市出身。ブライダル等の仕事の他に、山形ウエディング協議会会長、やまがたイグメン共和国副大統領等を務める。夫と子ども2人、猫1匹の5人家族

● 就職した動機と仕事の内容

大学卒業後、東京のホテルに就職。5年後退職し、家業であるパレスグランドールに就職。現在、常務取締役。営業企画戦略、人材育成、事業開発などを担当。

● これまでの道のり

サービス業の修行の場として就職した東京のホテルで、素晴らしい上司に恵まれる。山形に帰郷後、ウェディングプランナーの草分け的存在の師匠に弟子入り。芸能人の結婚式などの現場でアシスタントとして働く。結婚し、2人の子の育児と両立してきた。

● ワーク・ライフ・バランス

仕事、家庭、自分という3つの柱、そして寄せ鍋型のWLBを意識している。仕事、家庭が大変なのは当たり前。自分の成長を実感できることや趣味など自分軸も大切にし精神的なバランスもとっている。

しかし、男女の役割分担意識や仕事と家庭の両立に関してはまだまだ社会的に問題があると感じているため、「やまがたイグメン共和国」などの活動を通して少しでも貢献したいと思っている。

● 夢や目標

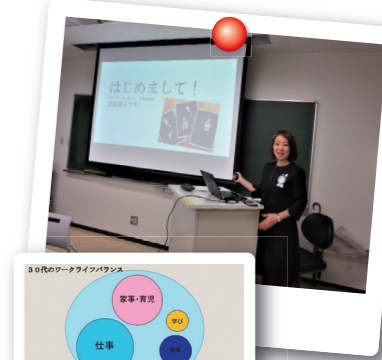
70歳80歳になっても社会で有為な人間になっていること。
家族や社員が幸せであること。

● 学生へのアドバイス

歳をとることを楽しみに。

● 「山形の女性の働き方」から男女共同参画を考える

共働き率2位、就業率も高い山形の女性はすでに頑張っている。企業や社会の支援、あらゆる層の意識改革が必要。また社会人基礎力の中で「前に踏み出す力」が弱いと感じる。チャレンジすることでしか人は成長できないと思っている。



Q 仕事、家庭、自分、そして社会という寄せ鍋型のワーク・ライフ・バランスとは？

A 天秤に掛けるものでなく、自分が希望するバランスが大切だ。そして、どれを負担に思うかではなく、それぞれから学び、自分を成長させていくことができた。



講義の振り返り

「遠い将来よりも今を大事に」という言葉が頭に残った。毎日、将来の進路を悩むよりも、今を大事にする方が大切である。夢や目標は変わるものだ。自分の向いていることや本当に好きなことを見つけていけばキャリアに役立つと思う。

「自分がしたいと思う仕事と、自分が本当に向いている仕事が違う」という話から、他人の意見をきちんと聞くことや助言を求める必要性が理解できた。

私はまだ将来やりたいことが定まっていないが、結局決定するのは自分なので、これだけは大切にしたいというもの(キャリア・アンカー)をちゃんと決めていきたい。そうすることで突然のチャンスも生かしていけると思った。

男性看護師を志望した時期があったが、女性の仕事だというイメージが強かった。しかし、何事も挑戦することが大切だと改めて思った。電子タバコの害や禁煙教育の必要性も深く理解できた。

講義の振り返り

ワーク・ライフ・バランスや人生設計について深く考えることができた。私は、「人生時計」というとまだ夜明け頃で、未熟な反面、これからたくさんのことを吸収することができる。決断力を持って、人生の岐路を乗り越えていきたい。

「20代で人生が決まる」という言葉に驚いた。私も先送りすることがよくあるので、今日の講義を聞いていなかったら20代を適当に送っていたかもしれない。

学生のうちにいろいろなことに挑戦したいと思うが、なかなか行動できない。「やるか、やらないかだったら、やる方を。大変か、大変でないかだったら、大変な方を選ぶ。」という選択の仕方に刺激を受けた。様々なことにチャレンジし、「年齢を重ねることを楽しみに」できるような自立した価値観を身に付けたい。

社会を変えるためには、「男性、父親の変化が何よりも大切だ」という話があった。将来の日本がイクメンの父親で溢れているように、自分も努力してみたい。